

夢が少しくなった？

歌手かアナウンサーになるのが夢だった。中学時代、「スター誕生」の予選に落ちて歌手をあきらめ、大学時代にはアナウンス学校に通っていたものの、就活早々に東レの内定を受け「一度は大手に勤めるのも経験」と入社を決めた。「回り回った末、今は人前で声を出す仕事ですから、近からず遠からずですね」と本人は納得している。

今日の服はHow much?

特技は、高価そうに見える安い服を見つけること。「お世辞かもしれませんが、学生から「その服、高かったでしょ」って言われます。ふふふ」。その日の気分で服を決めるそうで、疲れ気味の時ほど明るい色を着てテンションを上げる。「授業は学生とのエネルギー交換の場。私がダウンしていると学生は食いついてくれませんかからね」



プレゼント♥

ゼミ生から「似ている」とぬいぐるみを贈られたのをきっかけに、文房具や弁当箱など徐々に増えてきたコリラックマのグッズ。ヘッドホンを付けたぬいぐるみと寝そべったぬいぐるみは彼(!)からのプレゼントだとか。



最近の趣味

ヨーロッパで学会があると美術館によく足を運ぶ。自身も絵を描くのが好きで、最近ではちょっと変わったパステル画にハマっている。指先にパステルの粉を付けてじかに描くというもので、「右脳を使うと直感的で楽しい」と左手を使うそうだ。



ニューマシン

最も新しい実験装置が、科学研究費補助金で購入した味覚センサーだ。食品サンプルに水を加え攪拌抽出後、遠心分離機にかけて液体にすることで、苦味、甘味、旨味、塩味、酸味、渋味の各センサーが正確な数値をはき出す。



まえだともこ
前田智子 准教授

行動開発系教育コース
[応用生活系教育分野(家庭)]

京都府出身。京都工芸繊維大学を卒業し、東レに入社。5年間勤務した後、同志社女子大学大学院修士課程、大阪府立大学大学院博士課程などを経て、平成14(2002)年に兵庫教育大学助手に就く。19(2007)年から現職。穀物科学で多数の研究実績を残し、日本応用糖質科学会奨励賞などを受賞。「初等家庭科教育法」「生活スタイルと健康科学」など学部、大学院合わせて11の科目を担当している。

先生に質問!

- Q** 主に研究されている分野は
- A** 食物学領域の穀物科学です。ハイアミロース小麦や古代米、発芽ソバ、加工デンプンなど特殊な穀物に素材としての可能性を見いだす研究をしています。これらの素材でケーキやお菓子、パン、麺などを作り、低アレルギー性とか食感、保存性などを装置による分析評価と実際に食しての官能評価の両面から調査します。開発中の製品に適した穀物素材を調べてほしいという食品メーカーからの依頼も多いですね。
- Q** 具体的にどんな依頼が。
- A** 例えば、研究室にはデンプンの糊化、つまりゲル状になっていく過程を測定する装置があります。同じゲルでも小麦やクズ、タピオカと素材によって透明度などが異なり、「これは時間が経過しても濁らないから、総菜の焼き鳥のたれに適しているな」といった感じですね。
- Q** 学生たちにメッセージを。
- A** 多くの大学生が将来の進路に悩む中、兵教生は教員という明確な夢を持っています。でも、私自身が民間企業に勤めていたからかもしれないが、教員になるために必要な勉強だけをすればいいわけではないと思います。教育関係以外の人も交流し、今のうちにいろいろな世界を見ておくべきです。そういう経験が、教員になってからの対応力などにつながるのではないのでしょうか。